

算

平成19年度 市政方針

「室蘭発展への熱い想い、市民の幸せを願う気持ちを胸に、新しい室蘭づくりに取り組んでいきます」。新宮市長は第2回市議会定例会初日の本会議で、市政方針説明を行いました。『安心して暮らし、幸福を実感できるまちづくり』の実現に向けた6つの指針など、市政方針の概要をお知らせします。

指針① 不断の行財政改革



指針② 地域経済を支える雇用の創出と確保



指針③ 子どもやお年寄りに優しい地域づくり



目標

安心して暮らし、
幸福を実感できる
まちづくりへ

指針④ まちなか再生と商店街のにぎわいづくり



指針⑤ 市民力を活かした協働のまちづくり



指針⑥ 将来に向けた大きなまちづくり



はじめに

このたびの統一地方選挙において、引き続き市政を担当させていただくことになりました。

今回の選挙結果は、これまでの市政運営に対する厳しい評価であるとともに、今後への期待でもあると厳粛に受け止め、その責任の重さをかみしめています。

基本姿勢

選挙では具体的な数値目標や達成時期を示したマニフェストを掲げ、市民一人ひとりに政策を訴え実現を約束してきました。この間多くの人と会い、医療や福祉への不満、財政問題への危惧、中小企業の賃金・雇用の厳しさ、商店街が大型店との差別化を図るための努力など、まちづくりへのさまざまな声、暮らしの厳しさについての切実な願いを感じました。

この市民の声や思いを強く受け止め、本市の持つものづくりの力をさらに押し上げ、将来にわたって室蘭で安心して暮らしていただける、そして幸福を実感できるまちづくりを目標に、マニフェストを必ず実行するとの強い決意で、6つの指針をこれからの4年間で、市民の皆さんと一緒に積極果敢に取り組んでいきます。

まちの方針と予

① 不断の行財政改革

不良債務等の解消を柱とした財政基盤の確立は、市民生活を守り、将来の室蘭を築き上げていくために最も重要な課題です。

国では、財政破綻を未然に防ぐべく、企業会計なども含めた自治体財政の危険度を表す具体的な判断基準を秋に明らかにする予定です。

市ではこれまでの行財政改革の努力により、企業会計等の不良債務解消に道筋を付けてきましたが、国が示す新しい基準によっては、地方自治の運営を事実上国の管理下に置くこととなる「財政再生計画」策定の義務づけなど、非常に厳しい状況に置かれる可能性があります。

●不良債務解消計画を加速し、まず、平成20年度末までに、港湾会計の約42億円の不良債務解消を目指します。

●土地の売却、収納対策の推進などによる歳入確保や事務事業の見直しなどを徹底し、人件費では今後3年間で職員130人の縮減と地域給の導入、特別職の給与引き下げの継続に加え、今任期にかかる私自身の退職金は受け取りません。



祝津地区などの港湾用地売却などにより、平成20年度末までに港湾会計の不良債務解消を目指す



市政方針を説明する
新宮市長

② 地域経済を支える雇用の創出と確保

●「ものづくりは人づくり」であり、また働く場所がなければ人は集まらず、まちの発展もないことから、自ら先頭にたってトップセールスを展開し、環境産業などの企業誘致を進め、4年間で200人の雇用創出を目指します。

●U・Iターン事業による人材誘致や、ものづくり分野への女性進出と若者の就業支援を目的とする、新たな人材育成事業を創設し、中小企業の人材確保を支援します。

●室蘭港については、RORO船就航など、物流機能強化を視野に入れたポートセールスや客船等の誘致を積極的に進め、海からの交流人口拡大を図るなど、にぎわいあふれる港づくりを進めます。



世界最大級の客船「サファイア・プリンセス」が昨年引き続き、今年も9月23日に入港。ポートセールスを積極的に行い、にぎわう港づくりを進める



PCB廃棄物処理施設では、10月の本格稼働に向け、設備機器の性能確認など、試運転を行っている

●PCB廃棄物処理事業については、残る安定器の処理についても、新たな設備投資と新規雇用が期待されることから、国の処理方針を見据え、施設整備の推進を働きかけます。

●廃食用油などのバイオマス資源や水素エネルギーの活用など、産学官民で取り組む新エネルギー分野の研究や技術開発も積極的に支援します。

特に水素エネルギーについては、コークス炉ガスや風力等自然エネルギーを活用した水素生成など、室蘭地域の特性と優位性を活かし、将来の水素利用社会の実現に貢献できるまちとして、その技術力を発信します。

③子どもやお年寄りに優しい地域づくり

子育て施策

●今後5年間の整備目標を定め、老朽化した公立保育所の環境向上と定員拡大を図り、子どもを育て働くお母さんに、安心して預けていただける環境整備を進めます。

障がい者施策

●障がい者の自立支援と社会参加を促進し、国に対して、所得に応じて適切に負担する制度の改正など、軽減措置を強く要請します。

●えとも学園とあゆみ園、子ども通園センターについては、旧朝陽小学校を活用した新たな「児童療育施設」として、平成21年度の供用開始に向けた整備を進めます。

高齢者施策

高齢者が抱える日々の生活や将来の不安などを少しでも解消し、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、地域や事業者などと協力し、地域に密着した形で見守り支えあう仕組みを構築します。

●地域において24時間体制で高齢者を支えるため、小規模多機能型居宅介護施設など、きめ細やかな介護サービスの充実を促進します。

●敬老荘については、民間事業者による改築を基本に、平成21年度の新施設完成に向けた取り組みを進めます。



地域医療を支える人材確保

医療環境が恵まれている西胆振地域においても、医師の引き揚げによる診療科の休止などが相次ぎ、特に救急医療や産婦人科では深刻な問題となっています。

●「医師がいない地域には、安心な暮らしはない」との認識に立ち、登別・伊達市と連携し、医療機関と情報交換を行いながら、医師確保に努め、市立病院については「地域センター病院」としての社会的役割を維持するため、医療従事者の処遇改善を図り、医師確保を通じて診療体制の充実に努めます。

●看護師不足については、市立室蘭看護専門学院の定員拡大や奨学資金貸付金の増額など、さまざまな面からの対策が必要であり、閉校予定の文化女子大学室蘭短期大学跡地の活用策も同時に検討しながら取り組みを進めます。

※教育行政の基本的な考え方は、教育行政方針（7ページ）をご覧ください。

④まちなか再生と商店街のにぎわいづくり



●まちなか居住の促進と商店街のにぎわいを創出するため、商業機能を有する主な地区を対象に、地域住民や商店街の声を踏まえた「まちなか再生プラン」を策定します。

●まちなか居住の促進については、市営住宅の建て替えや公共用地の活用のほか、借り上げ公営住宅や既存施設の住宅への用途変更など、民間の力を活用した方策も検討し、高齢者がまちなかに住みやすい仕組みづくりを進めます。

●にぎわいの創出については、空き店舗を活用した、高齢者や若者が集う空間づくり、チャレンジショップの設置など、にぎわいあふれる魅力ある商店街づ

くり事業に対し、支援制度拡充の検討を行い、商店街の活性化を積極的に支援します。

●中央地区については、アーケード撤去後の環境整備や新たな集客拠点となる広域センタービルの建設、空き店舗の活用などにより、商店街の回遊を創出し、舟見町団地建て替えや胆振支庁移転跡地の活用などにより、まちなか居住を促進します。



●中島地区については、公共と民間の連携による複合施設の整備により、子どもからお年寄りまで幅広い世代の交流を生み出す拠点づくりと、大型店と商店街を結ぶ回遊を創出し、中島中央通の整備や民間による土地の高度利用に合わせ、住宅供給の促進を誘導します。

⑤市民力を活かした協働のまちづくり



道路や公園の清掃などを行うまちピカパートナー。
約5,000人が登録するなど、市民活動の輪が広がっている

市民の皆さんが、自分たちでできる身近なことを、少しずつ積み重ねることで、地域活動の輪が広がり、市民力が育ってきました。

この市民力を発展させ、地域の課題は地域住民自らが解決する仕組みづくりを進める必要があります。

この実現には、市職員が地域に出向き、ともに汗をかき応援するなどの意識改革と、市民の意思がまちづくりに反映される仕組みづくりが必要です。

●パブリックコメントや市民による事業提案制度などを導入し、市民のまちづくりへの参加機会拡大を図ります。また、市民活動の拠点である市民活動センターをまちなかに移転して、情報発信や市民活動をサポートするなど、機能充実に努め、市民との信頼関係や相互理解を深め、新たな地域コミュニティの仕組みづくりを進めます。

⑥将来に向けた大きなまちづくり

多様化する行政需要や地域課題に対応するためには、これまで以上に広域連携を進める必要があります。この連携の積み重ねが、将来の大同合併への道筋になると考えています。

西胆振地域の資源共有が新たな価値を生みだし、スケールメリットを活かした自立性確保の視点などから、大同合併による20万都市づくりが、地域の発展に望ましく、行政間だけでなく、住民同士の交流を含めた広域連携の推進や、住民が地域の将来を考えるための情報共有、また住民が主役となって議論をするための環境づくりが必要です。



西胆振地域の将来を考え、広域連携などを推進
(写真は昨年11月に開催した「西胆振地域連携フォーラム」)

●昨年実施した市民参加のフォーラムを継続し、住民が基礎自治体のあり方や、地域の将来を考えることができる資料作成のため、6市町で研究会を設置します。

●白鳥新道2期区間への対応については、昨年、白鳥新道のあり方を考えるワークショップが設けられ、「地域づくりの視点」、「使われる・使われやすい道づくりの視点」をもとに、まちづくりのあり方を含めた貴重な提言をいただきました。

この提言は、参加された皆さんの熱意の結晶で、この成果を尊重し、都市機能の向上や地域経済に力を取り戻す整備の方向性について、関係機関との話し合いを進めながら、地域の声として国に提案します。



白鳥新道2期区間のあり方は、市民視点で考えられた提言を尊重し、方向性を検討

マニフェストの推進

マニフェスト実現に向けた6つの指針を着実に実行する観点から、早急に取り組むべき課題に即し、新たな組織体制を構築します。

●協働社会の形成やまちなか再生などの政策課題について、推進本部を組織し、市職員が直接市民の声を聞き、話し合い、ともに行動する体制をつくりまします。また、その事務局を担う「市民活動推進課」を設け、市民による事業提案などの仕組みづくりや町会や市民活動団体などと連携を取りながら、新たな地域コミュニティづくりを進めます。

●行財政改革のスピードアップと、新しい再生法制への対応や新エネルギーなど新分野への展開・事業化を推進する体制を構築します。

むすびに

私が目指す「幸福を実感できるまち」とは、夢や希望を持って、ここに住み続けたいと一人ひとりが感じることができるまちであり、これを未来を担う子どもたちへと引き継いでいくことが、今を生きる私たちの責任です。少子高齢化や人口減少、地方分権など、地方は大きな転換期を迎えており、非常に厳しい時代が続くと考えています。

しかし、室蘭には、新しい時代へ向かって、日々挑戦を続けるものづくりの基盤があります。

世界に誇れる技術力を持った企業とそれを支える優秀な人材、知の拠点である大学、ものづくりのまちを誇りに思う市民、そして行政が連携し、それぞれが持つ底力を合わせることで、困難も、必ず乗り越えられると考えています。



市議会や市民の皆さんと力をあわせ、新しい室蘭づくりに取り組みます(写真は6月に開催された第2回市議会定例会)

今回の選挙期間中、皆さんから厳しい声を聞く一方、「頑張れ」という声も数多くいただきました。

これは、「室蘭の持つ潜在能力を、もっと掘り起こして発展させてほしい」、そのために、私をはじめ「市役所にも、もっと力を発揮してほしい」という声であると受け止めており、心を新たに、私が先頭に立ち、市職員と一丸となって、頑張っていきます。

最後に、これから4年間の舵取りがサークル都市室蘭の未来を大きく左右するという認識のもと、室蘭発展への熱い想い、市民の幸せを願う気持ちを胸に、市議会並びに市民の皆さんと力をあわせ、新しい室蘭づくりに取り組んでいきます。

補正予算の編成

本年度当初予算は骨格での編成としながらも、地域経済の厳しさを認識し、市民生活に直接関わりある施策を中心に、可能な限り予算計上しました。

今回の補正は、中学校のアスベスト対策や水道会計の浄水場整備など補助決定に伴うもののほか、当初予算で留保していた財源を有効に活用し編成したものです。

主な内容としては、ハザードマップの作成、新たな児童療育施設の実施設設計、スクール児童館の整備、U・Iターン事業や女性技術者育成と若者の就業支援を目的とした「ものづくりニューパワー育成事業」の実施、さらに、PCB廃棄物処理運搬等の安全性確保と物流の効率化を図るための入江地区臨港道路の整備など、安心・安全に暮らせる地域づくりや雇用の拡大などに取り組みます。

平成19年度予算額(6月補正後)

会計別区分	当初予算額	6月補正予算額	計	
一般会計	404億1900万円	3億3600万円	407億5500万円	
特別会計	国民健康保険 ※	123億2400万円	123億2400万円	
	土地区画整理	3億8500万円	3億8500万円	
	住宅事業	12億4100万円	1億1000万円	13億5100万円
	老人保健	119億8900万円		119億8900万円
	介護保険	56億9100万円		56億9100万円
小計	316億3000万円	1億1000万円	317億4000万円	
企業会計	水道事業	29億5800万円	8000万円	30億3800万円
	工業用水道事業	800万円		800万円
	病院事業	104億6600万円	6000万円	105億2600万円
	中央卸売市場事業	2億5100万円		2億5100万円
	白鳥台開発事業	3億2900万円		3億2900万円
	港湾整備事業	4億3800万円		4億3800万円
	下水道事業	45億3000万円		45億3000万円
小計	189億8000万円	1億4000万円	191億2000万円	
合計	910億2900万円	5億8600万円	916億1500万円	

補正予算とは、年度の途中で当初予算を修正した予算。

※5月補正後予算額

平成19年度の市政方針説明は市ホームページ (<http://www.city.muroran.hokkaido.jp/main/org2200/siseihousin.html>) に掲載しています。